

第4回 佐久新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)4月27日(火) 18時00分～19時30分
場所	佐久市中込会館 大会議室
出席 (敬称略)	花里 英一, 高見澤 一男, 相馬 栄治郎, 白鳥 敬日瑚, 吉岡 道明, 廣末 恵子, 高橋 功, 吉岡 徹, 中島 瑞枝, 堀込 健一, 岩井 健二, 坂内 裕美子, 山崎 裕史, 山下 純一, 井出 豊彦, 木下 照美, 桃井 妃菜, 林 樹生, 柳沢 桜太, 久松 賢悟 (以上20名)
傍聴者	13名
事務局	野沢北高校: 吉澤 教頭(事務局長), 白石 教諭 野沢南高校: 鈴木 教頭(副事務局長), 小林 教諭 県教育委員会: 駒瀬 高校再編推進室長, 高野 担当係長, 小林 主任指導主事 有坂 教諭
当日資料	○次第, 第3回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ, 佐久新校の学校像

会議事項

- (1) 第3回佐久新校再編実施計画懇話会まとめについて(報告)
- (2) 第2回校地検討部会について(報告)
- (3) 論点整理を踏まえての意見交換

主な意見(要旨)

(⇒県教委回答)

【期待する学校】

- ・中学生の期待、学習ニーズに合った高校づくり。
- ・大学進学のため旧通学区以外の公立・私立高校への進学を考えなくてもよい高校づくりを希望。
- ・新校では様々な学びの中で旺盛な探究心を持った生徒を育てて欲しい。また、育つ環境を整備して欲しい。
- ・大学のような学校がよい。自分で授業を選択することで、学習への取組のモチベーションも上がると思う。
- ・幼保小中高と、地域や地元企業との「つながり」を大切にしたい新校を期待する。
- ・大学から地元に戻り、地元の企業はじめ、地元に貢献する人になっていくことは、地域づくりにおいて大変重要。
- ・感性豊かな「気づく力」の醸成が大切。

【探究的な学び】

- ・知識だけを学ぶことを文科省は見直している。探究的な学習はすべての学びの始点であり、生涯学び続ける姿勢づくりに必要。

【探究的な学びの実践例】

- ・野沢北高校: 公園の規制についての研究、吹奏楽で佐久市を活性化 など
- ・野沢南高校: グロテスク模様の研究 など

【その他】

- ・探究的な学びの実践例や可能性の発信が、高校の魅力や中学生の憧れの学校、進路選択に繋がる。
 - ・設置学科や高校が目指すレベルを具体的に示して欲しい。新校は、難関大学の受験が可能な高校になるのか。今後その点について話し合われていくのか。
 - ・難関大学に合格するための学力をどう高めていくかという議論がないことに疑問を感じる。基礎的な「学力」ということを視野に入れたうえでの議論の進展を希望する。
- ⇒今までは知識偏重の教育だった。今後は基礎となる知識・技能をベースに、思考力・判断力等々、これから必要となる資質・能力を伸ばしていきたい。もちろん、これからの学びの礎となる基礎学力など、基本的な部分は当然しっかり押さえていかなければいけない。

【次回要望】

- ・新校に対して、県の動き、方向性、スケジュール等具体的な資料を示して欲しい。

次回の予定

日時: 令和3年5月31日(月) 18:00～19:30
 場所: 佐久市中込会館 会議室1
 会議内容: 両校授業の実践発表、両校同窓会協議会から目指す学校像等協議会案発表、意見交換